

経 済 送 輸

リレー連載

物流がみた 道路交通計画

近年物流は大きく変わりを述べた。

り、これから変わり続 け、これからも変わり続 けていくだろう。その変 化の方向は、第一部(第 1~4回)で示してきた。 紙幅の関係で触れること ができなかったが、商品 や物資の国際流動が増大 すること、物流の国際 化も進んでいる。第二部 では、「分ける」「減らす」 「換える」ことによるマ ンジメントの重要性を説 いてきた。また第三部で は、災害対策、安い物流 者対策、ICT(情報通 信技術)の活用必要性を 二体化した、より包括

大手、中小が持 ち味生かして

まず、大手事業者によ る総合型の物流事業には 包括的な物流サービスを 提供する3PLがある。

現状、特定の拠点運営 にとどまっている場合が 多いが、拠点運営と輸送 一体化した、より包括



渡部 幹氏(わたなべ けん) 昭和29年生まれ。 早大院修了。技術士(日通 総合研究所を経て、建設 技術研究所特任技師長。 前東京海洋大学特任教授)

終わりに ～将来展望～

第12回

的なサービスへと発展し た例もある。さらには、 調達から販売まで、サブ ライチェーン(供給網) の一括受託が実現するか もしれない。

全国ネットワークの形

国際化へのさらなる対 応も期待される。わが国 最大級の物流事業者であ る日本通運でも、海外進 出国は四十二カ国二百六 十都市(平成二十八年三 月現在)。荷主企業の旺 盛な海外展開を考慮する と、物流事業者の海外進 出余地はまだ大きいに違 いない。

温度管理を徹底したコ ールドチェーンの全国展 開や包装技術、振動抑制 技術による易損品輸送、 許可取得を要する医薬品 物流など特定の技術や商 品に特化したサービスも 大手の得意分野だ。

成も、大手ならではの形 だ大手でも単独で形成で きるところは少なく、大 手同士で提携してネット ワークを形成する例が出 ってきた。今後も提携など が増える可能性がある。

特定の地域を事業基盤 とする事業者であれば、 遠方の同業者と提携する ことで、地域間ネットワ ークを形成できる。提携

先を増やすことで、大手 先を増やすことで、大手 型物流事業者には、地域 型物流事業者には、地域 型物流事業者には、地域 型物流事業者には、地域 型物流事業者には、地域

的な配送を実践すること が考えられる。 生産・加工・配達を一 体化する「リードタイム ・ロジスティクス」もあ る。例えば宅配ピザで

表 これからの物流事業の方向(例)

	大手事業者	中小事業者
総合型	<ul style="list-style-type: none"> ●物流サービス ・3PLの高度化 ●輸送ネットワーク ・全国ネットワークの形成 ●国際化 ・海外進出とグローバルネットワークの形成 	<ul style="list-style-type: none"> ●物流サービス ・倉庫業と運輸業との提携による一体サービス ●輸送ネットワーク ・同業者提携による地域間ネットワークの形成 ●輸送モード ・貨物車・鉄道・海運の利用
特化型	<ul style="list-style-type: none"> ●技術特化 ・3温度帯対応コールドチェーンの展開 ・堅固な包装や振動抑制による易損品輸送 ●商品特化 ・医薬品物流の全国展開 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域特化 ・ラストワンマイルでの効率的な配送 ・リードタイム・ロジスティクスの実践 ●商品特化 ・鮮食品の鮮度を維持した輸送の実践

創意と工夫により、物 流の分野にはまだまだビ ジネスチャンスがある。 このとき、「分ける」「減ら す」「換える」は、新しい ビジネスを生み出した り、既存のビジネスを改 善したりする時のヒント を与えてくれる。自らの 事業を「分ける」「減ら す」「換える」視点で見つ め直すとき、明日の事業 の発展が見えてくる。

ビジネスチャ ンスはまだま だ

(連載終わり)

平成28年6月7日